



INVITAE



非小細胞肺癌における 遺伝子検査手法選択のポイント -2022年現在

2022年4月14日 (木) 12:10-13:00 (50分間)

第3会場

(神戸国際会議場 3F レセプションホール)

共催：第111回日本病理学会総会

インヴィテ ジャパン 株式会社

非小細胞肺癌ではさまざまなドライバー遺伝子変異が発見され、ドライバー遺伝子変異陽性患者に対して分子標的薬を投与することによって予後が改善することが報告されています。その遺伝子検査をめぐるにはNGSやPCR、qPCRなど様々な分子生物学的手法を用いた検査法の選択肢が増えてきました。それぞれの手法に特徴があり、その特徴を理解して検査法を選択するのが得策です。本セッションでは検査法の違いを解説し、検査法選択の際のポイントを議論していきたいと思えます。

座長 土原 一哉 先生

国立がん研究センター

先端医療開発センター

トランスレーショナルインフォマティクス分野



演者 村上 修司 先生

神奈川県立がんセンター

呼吸器内科



参加登録: <https://site2.convention.co.jp/111jsp/>